

市民向けワークショップの結果について

令和2年12月3日
政策企画部 企画振興課 企画係

目次

1	ワークショップ開催概要	スライドNo 1
2	第1回グループ発表	スライドNo 3
3	第1回自由コメント分析	スライドNo 11
4	第1回まとめ	スライドNo 12
5	第2回グループ発表	スライドNo 13
6	第2回自由コメント分析	スライドNo 18
7	終わりに	スライドNo 20

1. ワークショップ開催概要(1/2)

第1回				
開催日時	10/25(日) 10:00~12:00	10/25(日) 14:00~16:00	11/1(日) 10:00~12:00	11/1(日) 14:00~16:00
場所	キクロス	旭志公民館	七城公民館	泗水公民館
参加人数	37名	28名	36名	36名
内容	(1)SDGsについて (2)2030SDGsゲーム体験 (3)振り返り (4)10年後の菊池市を考える ①市民目線で、菊池市の「 ありたい姿 」を考える ②明日から取り組むことを考える			

1. ワークショップ開催概要(2/2)

第2回

開催日時	11/15(日) 10:00~12:00	11/15(日) 14:00~16:00
場所	キクロス	キクロス
参加人数	24名	31名
内容	(1)SDGsについて (2)SDGs de 地方創生ゲーム体験 (3)振り返り (4)10年後の菊池市を考える ①第1回で検討した、「 ありがたい姿 」に対する「 課題 」を考える ②課題に対して、「 市民自らができること 」を考える	

2. 第1回グループ発表 (1)キクロス (1/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

1班

これからもずっと**住み続けたい菊池市**であってほしい。**豊かな資源、温泉やお米**などがあるのでこれらを活かしていきたい。そのためには**道路の整備**が必要。

2班

一生**住み続けたい、笑顔があふれる、安心して住める**まち。

3班

住みやすい、経済と福祉が充実したまち。高齢者の交通手段を改善する。全ての人が**平等**で、**機会が奪われない**。

4班

魅力ある菊池市にしたい。高齢者が運転免許を返納しても大丈夫なように、**交通網の整備**が必要。孤独死を出さないために、**地域の輪を広げる**。人が楽しく集えて、**にぎわいがある**まちづくりを。

5班

笑顔あふれるまち。昔に比べ、子供の姿を見なくなった。**若い人たちを積極的に呼び込みたい**。交通の便は、ただ便利にするだけではいけない。**格差が解消**され、少数派が心配しないでよい社会をつくる。菊池溪谷という**資源を汚さない**ようにしたい。



2. 第1回グループ発表 (1)キクロス (2/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

6班

人と人々が**支え合える**まち。菊池に戻ってきたときに**安心できる**まち。



7班

自分たちの**生活が豊か**になること。子どもは自然の中で育ててほしい。**交通インフラの整備**が必要。菊池は通り過ぎるだけの場所になっているが、降りる場所にならないといけない。山はあるが持ち主がいないなど、財産はあるけど活用ができていない状況を改善する必要がある。

8班

菊池の良い財産を生かしたまちづくりをしていきたい。高齢者は車がなくても安心できるようにする。**地域循環経済**を形成し、**自然災害にも強い**まちづくりをする。

9班

平等で皆が**安心**して暮らせるまち。雇用などをサポートし、**若い人が住みやすい**まちづくりをする。明日から挨拶などのちょっとしたことから**地域交流**を意識していきたい。

2. 第1回グループ発表 (2)旭志公民館 (1/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

1班

今の子どもたちが自分のまちを**自慢できる**ような、**魅力ある**まちにしたい。自分の周りの家族や子どもが魅力のある人間に育つこと。これが魅力あるまちづくりに繋がる。

2班

市職員が、他の地域に**自慢できる**ような地域になってほしい。市職員が自分が住みやすいと思えること。雇用の場として菊池市を作っていく。市職員が自分が住んでいるからこそ、その魅力を他に発信していただきたい。若い人が魅力を感じるよう、自社で雇用を創っていく。

3班

子どもが**未来を想像できる**ようなまち。少子高齢化により隣の人との関係性が希薄化している。菊池に住む外国人も増えている。**犯罪のない、安心して住める**まちにしたい。一人一人がゆとりのある地域にする。旭志は畜産が活発なので、さらに活発になるとよい。新しいことに諦めずに取り組む。自分の仕事が畜産業なのでまず仕事を頑張りたいと思う。

4班

子どもにも大人にも人気がある地域になってほしい。



2. 第1回グループ発表 (2)旭志公民館 (2/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

5班

環境にやさしいまち。若い人が多くいて、活力があるまち。高齢者が安心できるまち。若い人が政策形成に参画しやすいまち。交通インフラの整備が必要。乱開発は抑止しなければならない。居住エリアと自然エリアを分けて計画的に開発を行う必要がある。

6班

若者や子どもが多くいる社会。経済、環境、社会のバランスが取れた社会。衣食住に加え、適切な医療があること。特に生きることに直結するのは食。自分たちの住む自治体から安全な食を確保することは重要。一人ひとりが日ごろからSDGsを意識しながら、自分には何が出来るかを意識して行動していくことが大事。

7班

今ある美しい環境をそのまま未来に繋げたい。色々な価値観を尊重しながら、困っている人が困っていることを心配せずに発信できるまちに。自然や食べ物を子どもたちへつなぐ。未来をイメージすることで何をしたいかを見つけ出し、自分が感じたことを子どもたちに繋いでいく、言葉にして残していくことをやりたいと思う。



2. 第1回グループ発表 (3)七城公民館 (1/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

1班

若い人からお年寄りまで繋がる、助け合いのまち。

2班

子どもは地域の宝。地域で支えていくことができればいいまちになる。

3班

心にゆとりがある、子どもから高齢者まで誰もが暮らせるまち。特に菊池は地域性が強く、縛られた感じがあるため、バランスをとるようなまちづくりをしてほしい。

4班

環境や自然が豊かで、思いやりがあり、安心安全のまち。

5班

自然が豊かで、幅広い年齢の方々が住み、若い人が住みたがるまち。



2. 第1回グループ発表 (3)七城公民館 (2/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

6班

菊池・七城が好きでこのまま変わってほしくない。働く場所があり、自然が豊かなまち。

7班

経済・環境・社会とバランスの取れたまち。高齢者が住みやすく、支える若者に負担が少ないまち。

8班

経済・環境・社会のバランスが取れたまち。自分が受けた御恩を返す「恩送り」の社会になると素晴らしいと思う。地域で食事を囲み、地域の情報をすぐに共有できる場があればいい。

9班

環境が守られ、子どもたちが安心して暮らしていけるまち。



2. 第1回グループ発表 (4) 泗水公民館 (1/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

1班

交通が整備され、人との繋がりのある、安全安心のまち。



2班

消防団に参加しているので、安心して安全なまちづくりの必要性を感じる。現在、老後に何千万円という単位のお金がかかるといわれるので、(仕事があり)しっかり収入が得られるまち。子どもたちが伸び伸びとして、住みたいと思うまち。高齢になれば「運転免許返納」ということにもなるので、生活しやすいまち。現役世代がやりがいを持って働けるまち。

3班

経済・環境・社会のバランスが必要。自然を大切にし、高齢者が安心できるまち。経済が潤うまち。

4班

高齢者や子どもたちが住んで良かったと思うまち。そのためには資源を有効活用する必要がある。

5班

「文教菊池」という言葉を昔から耳にしていたが、今の菊池がそうであるのか不安。もっと教育に力を入れるべきではないか。また、高齢者に優しい地域づくりが必要。

2. 第1回グループ発表 (4) 泗水公民館 (2/2)

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対するグループ発表

6班

思いやりのある人づくりを進めること。思ったらすぐ行動を起こす心構えが重要。(まちづくりとしては)**生活環境を整える**ことが大事。

7班

子どもを増やすこと。地域を作るのは人であり、人が増えれば経済は潤う。若い人が出ていってしまうということもあるので、子どもの頃から**郷土愛**を育む・植え付けることが重要。

8班

若者が住む楽しいまちへ。人が増えると**防犯が必要**なので、**安心**のまちへ。何でも**チャレンジ**できるまちへ。例えば、事業や受験で失敗しても支え合えるまちへ。今日ワークショップを通じて気付いたが、**みんなが話し合える**まちへ。

9班

安心した子育てができるまち。



3. 第1回自由コメント分析

- 市民が求める「ありたい姿」についての自由コメントからキーワードをグループ分けすると①子どもからお年寄りまでみんなで助け合うまち、②豊かな自然の中で生活できるまち、③安心・安全に暮らせるまち、④交通機関が充実した便利まち、⑤人を大切にする思いやりのまち、⑥健康で楽しく暮らせるまち、⑦環境・社会・経済のバランスがとれたまちにまとめられる。

10年後、どんなまちに住みたいですか？に対する自由コメント分析

①子どもからお年寄りまで
みんなで助け合うまち

②豊かな自然の中で
生活できるまち

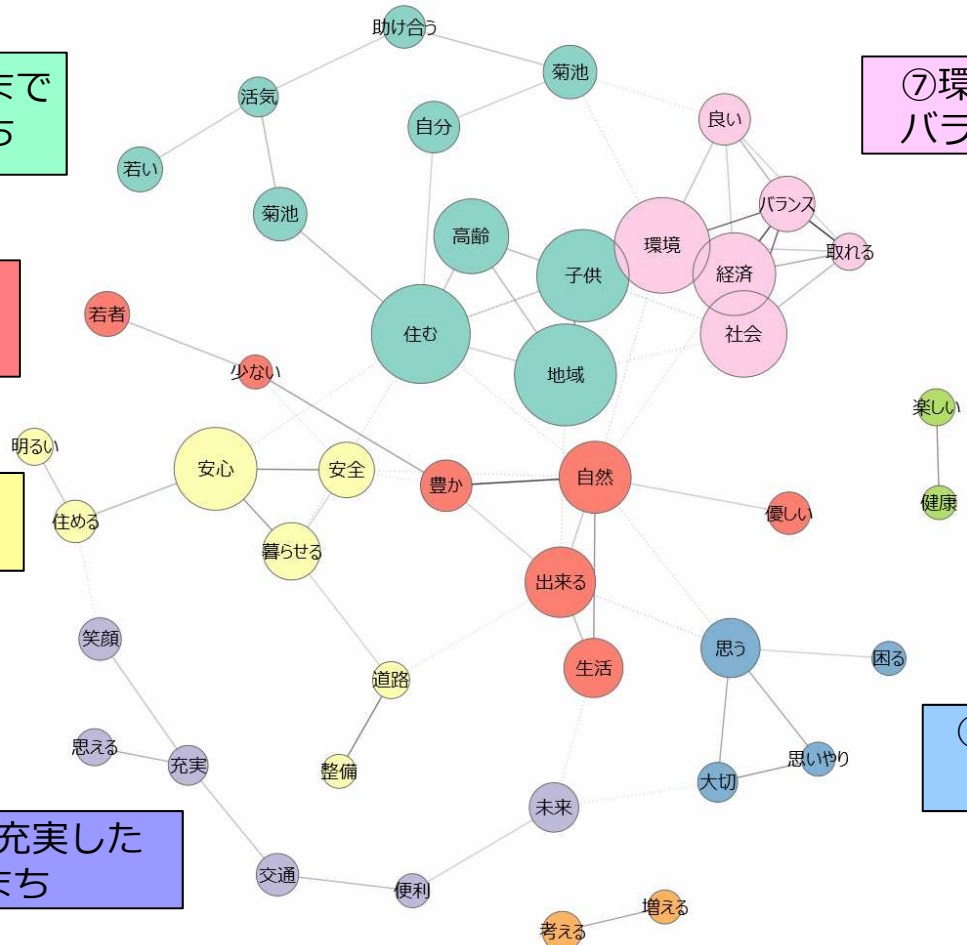
③安心・安全に
暮らせるまち

④交通機関が充実した
便利なまち

⑦環境・社会・経済の
バランスがとれたまち

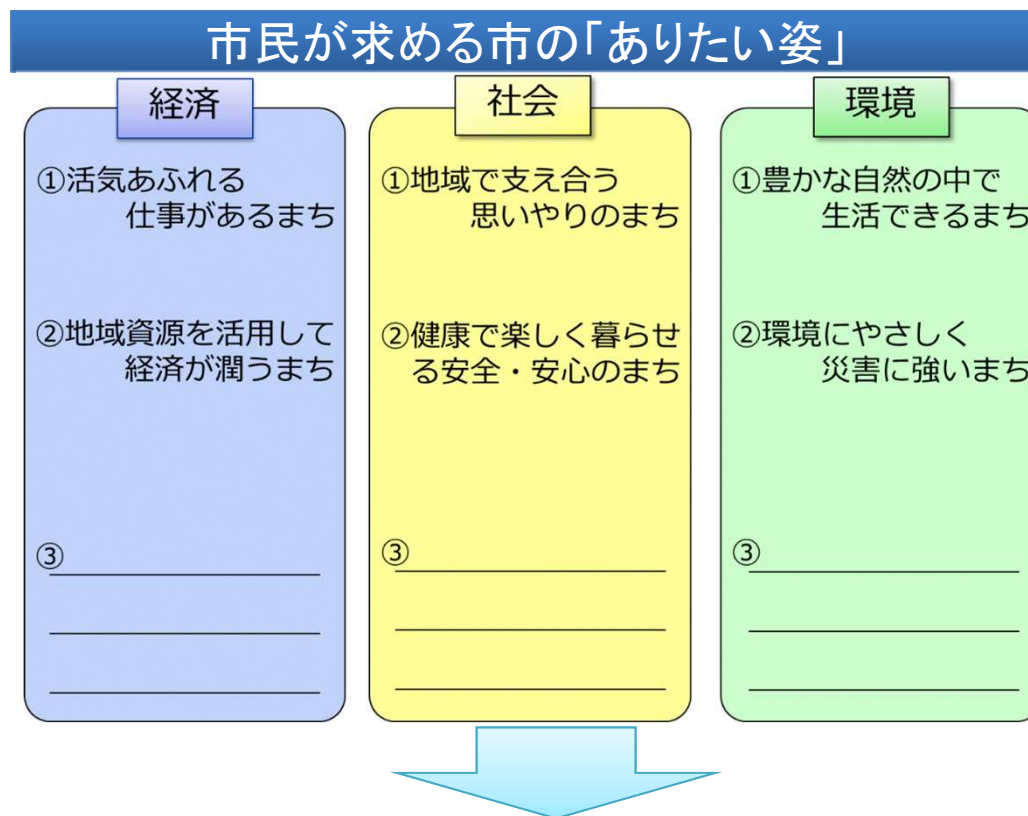
⑥健康で楽しく
暮らせるまち

⑤人を大切にする
思いやりのまち



4. 第1回まとめ

- 市民が求める市の「**ありたい姿**」を経済、社会、環境の軸で整理。
- 第2回ワークショップでは、これらの「ありたい姿」に対する「**課題**」と、「**課題を解決するために市民自らができること**」を深掘り。



第2回ワークショップでは、

①課題

②課題を解決するためにして市民自らができること を検討

5. 第2回グループ発表 (1)キクロス・午前の部 (1/3)

「ありがたい姿」に対する「課題」と「なにができるか」のグループ発表

1班

ありがたい姿は「環境にやさしく災害に強いまち」。最近、消防団員はなり手が少なくなってきた。そのため、高齢なのに代わりがないので抜けられない、という状況が起こっている。災害が実際に起きたときに消防団が動けなくて、行政の負担が増えるのではないかという、心配がある。**自分の家の両隣くらいの連絡先は把握しておく**など地域の協力が必要だと考える。

2班

ありがたい姿は「環境にやさしく災害に強いまち」。CO₂の削減が課題。私たちにできることとしては、**ごみを減らすこと、分別を適切に行うこと**などがある。CO₂の排出が減れば、災害も起こりにくくなる。

3班

ありがたい姿は「健康で楽しく暮らせる安全・安心のまち」。健康で楽しい暮らしを営むために、医療機関への交通アクセスが悪いことが課題。交通の便が良くなると他県からも来やすくなったり、車依存がなくなることにつながる。また、企業誘致をすると経済を回す効果もある。



5. 第2回グループ発表 (1)キクロス・午前の部 (2/3)

「ありたい姿」に対する「課題」と「なにができるか」のグループ発表

4班

ありたい姿は「持続可能なまち、若者をバックアップするまち」。若者が住みやすく、まちを活発にするためには、**食の課題**がある。今は遺伝子組み換え食品や、農薬、食品添加物があふれている。これらは体や遺伝的にも問題がある。これに対して手を打つことは、若者を元気にして、活気ある社会につながる。食を土台に考えていくべき。課題解決のためには、**身の回りの人と話し合う、行政に働きかける、市民運動**をするなど、**皆で結束**して取り組む必要がある。

5班

ありたい姿は「地域資源を活用して経済が潤うまち」。課題として**菊池市の魅力をまず、菊池市民が知る**こと。それを多方面にPRしていくこと。そうすれば観光客が増える。また、企業が目をつけ、雇用を生み出してくれるかもしれない。それに加えて交通の便が良くなると住みやすいまちになる。

6班 ありたい姿は「品位と品格のある菊池市、菊池市民」。そのためには歴史や文化教育を充実させることが必要。文化施設、教育施設を充実させなければならない。歴史を知るためには民族歴史資料館が必要。歴史を学べば人格は身に付いていくと思う。これまでの菊池市の計画についての実績検討でも、このワークショップのようなものがあったと思う。

5. 第2回グループ発表 (1)キクロス・午前の部 (3/3)

「ありたい姿」に対する「課題」と「なにができるか」のグループ発表

7班

菊池には交通網の問題が根本にある。温室効果ガスなどの環境問題を解決するため、電気自動車が求められるのではないかと思う。観光など、地域の活性化策も必要。温泉地の悩みとして、観光客が泊まった後にすぐ帰ってしまうことがある。少しでも留まってもらうためにはテーマパークなども必要なのではと思う。高齢者が安心できる交通網の整備も必要。菊池は熊本市からの交通の便が良くない。渋滞が緩和されて、菊池から熊本市への通勤がしやすくなれば人口増加につながる。課題解決のためには、**市の考えと市民の考えが同じ方向を向く**とよい。このワークショップのように、**市と市民が一体となって考える**ようなものがあれば、より良くなると思う。



5. 第2回グループ発表 (2)キクロス・午後の部 (1/2)

「ありがたい姿」に対する「課題」と「なにができるか」のグループ発表

1班

ありがたい姿は「地域で支え合う思いやりのまち」。子どもから高齢者までがお互いに支え合い、子育て、高齢者の生きがいも含めたまちづくり。フードバンクや人材バンクなどの取り組みに、高齢者や子どもたちも参画する機会を創出する。そうすれば子どもたちも学びながら、社会の循環ができる。それが経済にもつながる。

2班

ありがたい姿は「地域で支え合う思いやりのまち」。ありがたい姿に対して、行政だけでなく、市民一人ひとりが情報を発信していくことが必要。課題解決のためには、自分の周りの人から情報を伝えて、社会参加をしていかなければならない。お互いを知る、知ろうとすることが大切だと思う。周りの人と協力する力を付けていきたい。

3班

ありがたい姿は「地域資源を活用して、経済が潤うまち」。地域資源を活用する上での課題は、地域資源の魅力の発信ができていないこと。住民そのものが資源を資源として認識していない現状がある。住民が情報提供し合うような場を作るとよい。また、公共交通の不便さも課題。

4班

菊池市は、資源は素晴らしいものを持っているのでこれを活かすようにする。

5. 第2回グループ発表 (2)キクロス・午後の部 (2/2)

「ありがたい姿」に対する「課題」と「なにができるか」のグループ発表

5班

ありがたい姿は「活気あふれる仕事があるまち」。ちゃんと安定した仕事がある上で、活気があるということが大事。自分は農業をやろうとしているが、儲かりにくいという問題がある。問題解決のために大学へ行って学び、**安心安全な、儲かる農業をやりたい**。

6班

ありがたい姿は「環境にやさしく災害に強いまち」。10年後、高齢者はさらに増える。山の管理ができなくなるので、災害も発生するだろう。この班には防災のプロが2名もいるが、そのような方から、**防災に関して正しい知識を学べる場**ができるとよい。

7班

ありがたい姿は「環境にやさしく災害に強いまち」。皆が環境にやさしく触れ合えるようなまち。**ごみの分別**などから取り組んでいきたい。

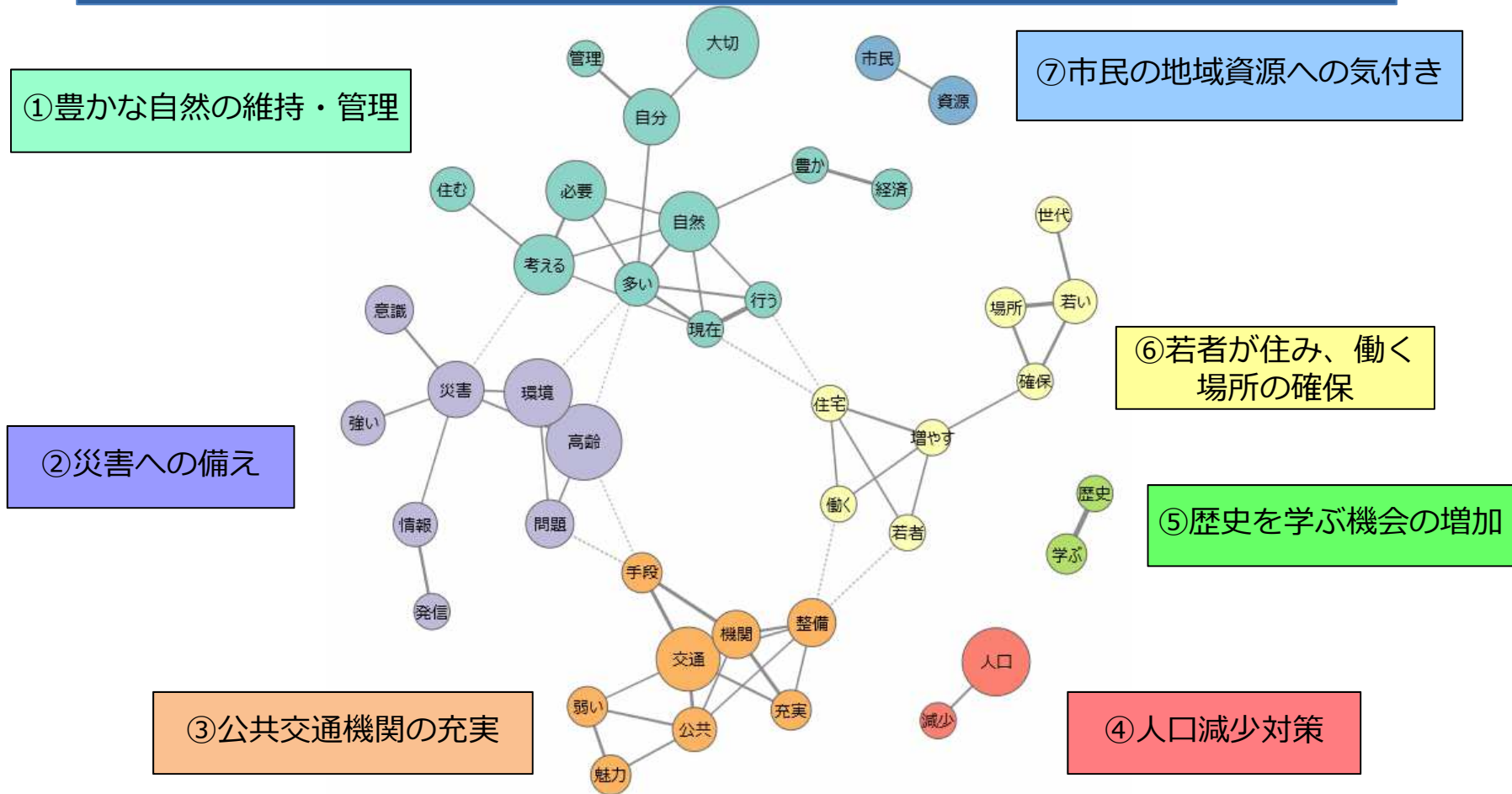
8班

ありがたい姿は「豊かな自然の中で生活できるまち」。現在の杉山は人工林で、放棄林となっている。人が住まなくなったエリアを放棄するのではなく、自然に戻すことが必要。針葉樹の杉山から広葉樹に戻すことができれば、それが地域資源になって経済が潤うかもしれないし、環境資源になるかもしれない。

6. 第2回自由コメント分析(1/2) 「ありたい姿」に対する「課題」

- 市民が求める「ありたい姿」に対する「課題」についての自由コメントからキーワードをグループ分けすると①豊かな自然の維持・管理、②災害への備え、③公共交通機関の充実、④人口減少対策、⑤歴史を学ぶ機会の増加、⑥若者が住み、働く場所の確保、⑦市民の地域資源への気付きにまとめられる。

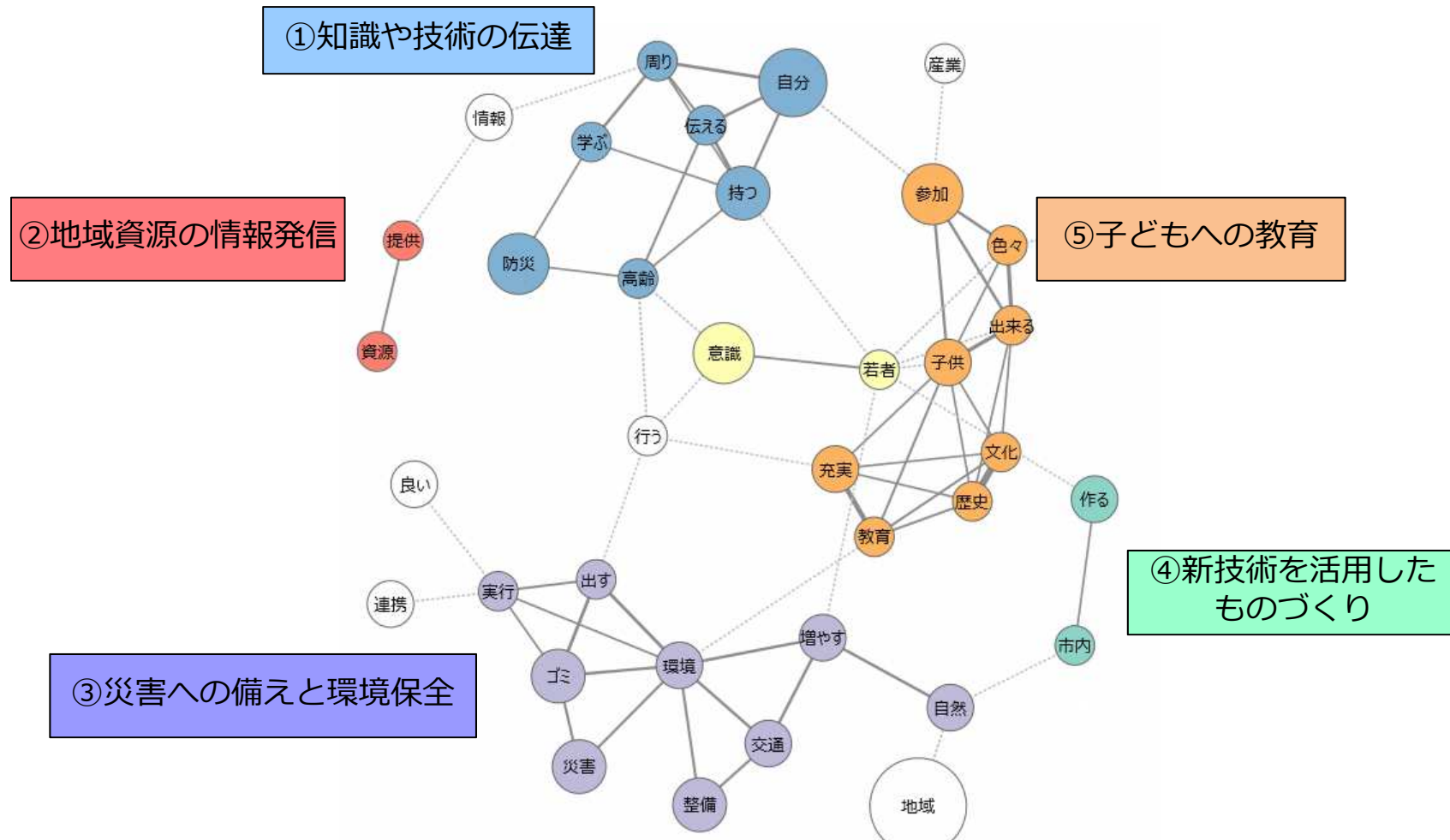
「ありたい姿」に対する「課題」の自由コメント分析



6. 第2回自由コメント分析(2/2) 「課題」解決のために「なにをするか」

- 「ありたい姿」に対する「課題」を解決するために「市民自身がなにをするか」についての自由コメントからキーワードをグループ分けすると①知識や技術の伝達、②地域資源の情報発信、③災害への備えと環境保全、④新技術を活用したものづくり、⑤子どもへの教育にまとめられる。

「課題」を解決するために「市民自身がなにをするか」の自由コメント分析



7. 終わりに

感想

市民からは、
「地域資源は充実しているので**豊かな資源**を守っていきたい」、「**人と人が支え合い、安心して暮らせるまち**」といった意見があった。

菊池市は昔から豊かな自然環境と、豊富な農林畜産物を背景に地域の中だけで生活が可能である一方、それらを発信しきれていない、また市民が市の魅力を知らないといった課題が挙げられた。

今回のSDGsのワークショップを通して、行政と市民が一体となって考える、市民が参画する「**パートナーシップ**」が重要という意見が出てきた。

持続可能な地域社会形成のためには、地域を維持する視点と、市民と共に一人ひとりが自分事として何ができるかを考えて行動することが重要だと思われる。